

# 県内企業の景況意識調査

(第180回)

- \* 2022年 1～3月期〈Ⅰ期〉の実績見込み
- \* 2022年 4～6月期〈Ⅱ期〉の見通し

## サービス業で大幅に悪化

今期（2022年1～3月期〈Ⅰ期〉）の業況判断BSIは、前期比20.4ポイント低下の▲29.6となった。業種別のBSIは『建設業』『製造業』の2業種で改善し、『卸・小売業』『金融・不動産業』『運輸業』『サービス業』の4業種で悪化した。

新型コロナウイルス感染症の再拡大を受け、サービス業で業況判断BSIが大幅に悪化した。一方、建設業や製造業では改善が見られたが、原材料仕入価格高騰を経営上の課題としてあげる企業の割合が高くなっている。

来期（2022年4～6月期〈Ⅱ期〉）の業況判断BSIは、今期比20.4ポイント上昇の▲9.2となる見通し。業種別のBSIは、『製造業』『卸・小売業』『金融・不動産業』『運輸業』『サービス業』の5業種で改善し、『建設業』の1業種で悪化する見通しである。

来期は、今期拡大した感染症の影響が次第に和らぐとの見方から「よくなる」と回答した企業の割合が増加しており、業況判断BSIは改善する見込み。

### \* 2022年 1～3月期〈Ⅰ期〉の実績見込み

- 製造業……………2期連続で改善
- 卸・小売業……………卸売業・小売業ともに悪化
- 建設業……………前期から改善
- サービス業……………4期ぶりに悪化

## サービス業で大幅に悪化

### ◎業況判断

【今期】(2022年1～3月期〈I期〉)

業況判断BSI：▲29.6 (前期比▲20.4㊦)

＜内訳＞

- ・よくなった 8.2% (前期比▲6.2㊦)
- ・悪くなった 37.8% (前期比+14.2㊦)
- ・変わらない 54.1% (前期比▲7.9㊦)

＜業種別＞

- ・前期比改善：2業種 (『建設業』『製造業』)
- ・前期比悪化：4業種 (『卸・小売業』『金融・不動産業』『運輸業』『サービス業』)

感染症の再拡大を受け、サービス業で業況判断BSIが大幅に悪化した。一方、建設業や製造業では改善が見られたが、原材料仕入価格高騰を経営上の課題としてあげる企業の割合が高くなっている。

来期は、今期拡大した感染症の影響が次第に和らぐとの見方から「よくなる」と回答した企業の割合が増加しており、業況判断BSIは改善する見込み。

【来期】(2022年4～6月期〈II期〉)

業況判断BSI：▲9.2 (今期比+20.4㊦)

＜内訳＞

- ・よくなる 18.4% (今期比+10.2㊦)
- ・悪くなる 27.6% (今期比▲10.2㊦)
- ・変わらない 54.1% (今期比±0.0㊦)

＜業種別＞

- ・今期比改善：5業種 (『製造業』『卸・小売業』『金融・不動産業』『運輸業』『サービス業』)
- ・今期比悪化：1業種 (『建設業』)

### ◎売上高と収益

【今期】

売上高BSI：▲16.2 (前期比▲17.2㊦)

4業種で悪化

収益BSI：▲27.0 (前期比▲19.1㊦)

4業種で改善

【来期】

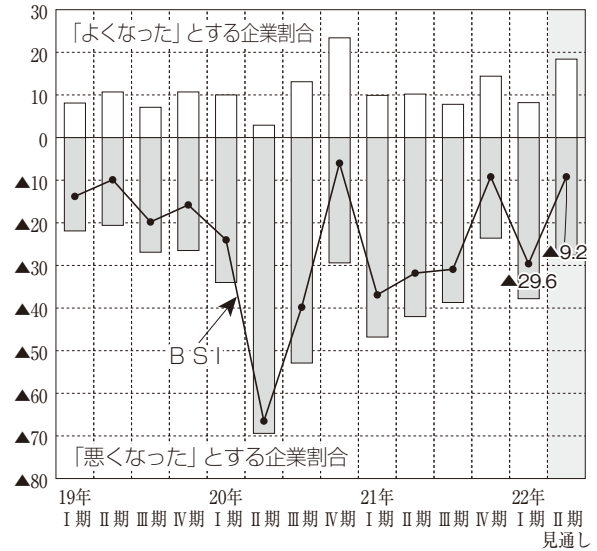
売上高BSI：▲10.2 (今期比+6.0㊦)

4業種で改善見通し

収益BSI：▲22.1 (今期比+4.9㊦)

4業種で改善見通し

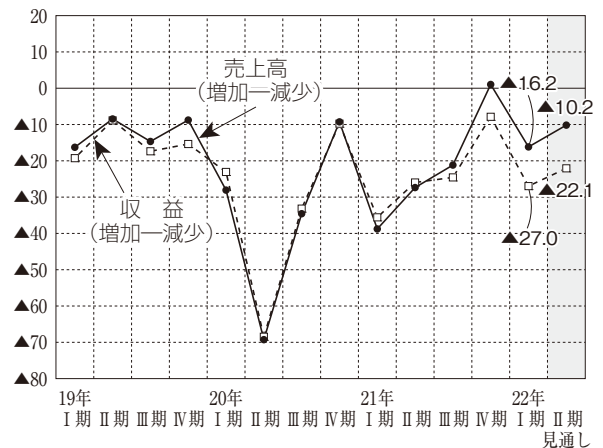
業況判断 ( B S I )



業況判断指数内訳 ( B S I )

	2021年 Ⅲ期	2021年 Ⅳ期	2022年 Ⅰ期	2022年 Ⅱ期見通し
建設業	▲21.4	▲20.0	▲11.5	▲27.0
製造業	▲29.0	▲22.2	▲20.0	▲1.6
卸・小売業	▲48.2	▲12.3	▲34.6	▲30.7
金融・不動産業	▲14.3	0.0	▲40.0	20.0
運輸業	0.0	6.7	▲21.5	14.3
サービス業	▲29.7	17.5	▲55.9	8.8
全産業	▲30.9	▲9.2	▲29.6	▲9.2

売上高と収益 ( B S I )



## ◎所定外労働時間と雇用者数の現状

### 【今期】

所定外労働時間 B S I : ▲13.0 (前期比▲ 8.3ポイント)  
 3業種で減少  
 雇用者数の現状 B S I : ▲34.6 (前期比▲ 7.5ポイント)  
 4業種で減少

### 【来期】

所定外労働時間 B S I : ▲ 9.9 (今期比+ 3.1ポイント)

## ◎経営上の問題点

- 1位: 「売上不振」(40.4%)
- 2位: 「原材料仕入価格高騰」(21.8%)
- 3位: 「人手不足」(12.4%)
- 4位: 「人材不足」(9.3%)
- 5位: 「競争激化」(4.7%)

業種別にみると、「売上不振」と回答した割合は、『サービス業』が69.7%と特に高い。「原材料仕入価格高騰」は『運輸業』で42.9%と最も高くなっている。

## ◎設備投資実施割合

### 【今期】

実施企業の割合: 37.1% (前期比▲ 3.2ポイント)  
 5業種で減少

<投資目的>

- 1位: 「補修・更新」(55.6%)
- 2位: 「合理化・省力化」(13.9%)
- 3位: 「生産能力の拡大・売上増加」(11.1%)
- 4位: 「事業転換・経営多角化」(5.6%)

### 【来期】

実施予定企業の割合: 33.0% (今期比▲ 4.1ポイント)  
 4業種で減少見通し

<投資目的>

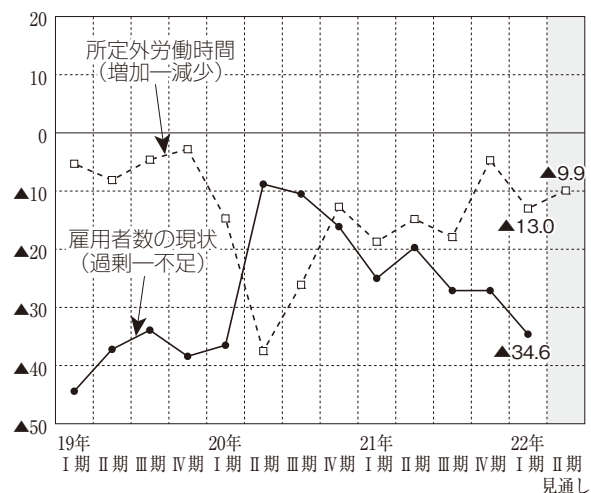
- 1位: 「補修・更新」(65.1%)
- 2位: 「生産能力の拡大・売上増加」(11.1%)
- 3位: 「合理化・省力化」(7.9%)

## ◎「令和4年度(2022年度)の採用予定」について

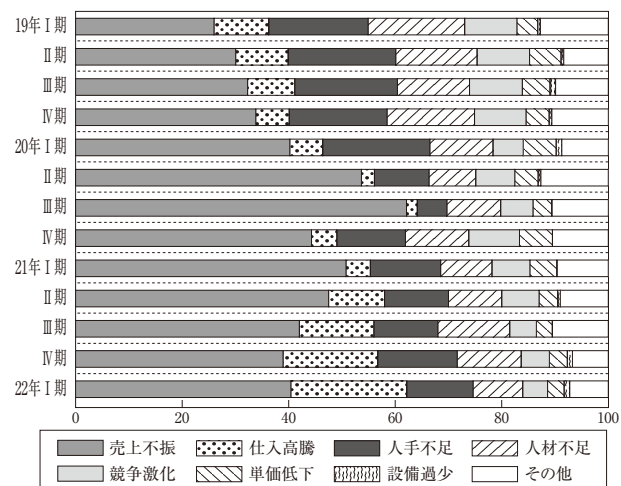
今回の調査において、「令和4年度(2022年度)の採用予定」について尋ねたところ、「新規卒業者を採用する」が36.5%、「中途採用を予定している」が22.8%、「採用しない」が23.4%、「未定」が14.7%となった。

1年前の「令和3年度(2021年度)の採用予定」についての調査と比較して、「新規卒業者を採用する」が3.0ポイント増加し、「中途採用を予定している」が1.8ポイント増加した一方、「未定」が4.8ポイント減少した。

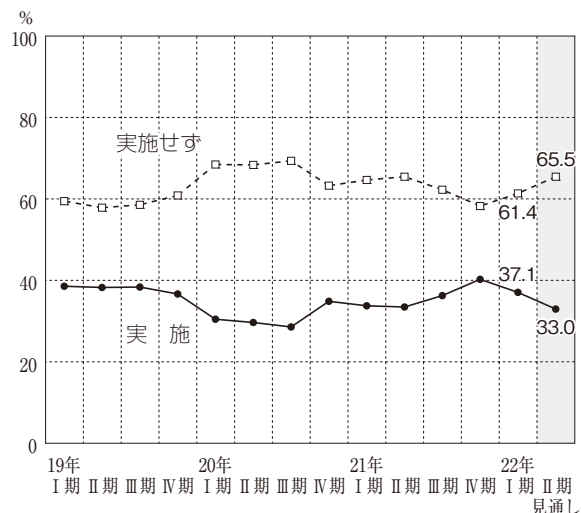
所定外労働時間と雇用者数の現状 ( B S I )



経営上の問題点 (%)



設備投資実施割合



## 2 期連続で改善

### ◎業況判断

【今期】(2022年1～3月期〈I期〉)

業況判断BSI：▲20.0 (前期比+ 2.2ポイント)

＜内訳＞

- ・よくなった 10.8% (前期比+ 1.1ポイント)
- ・悪くなった 30.8% (前期比▲ 1.1ポイント)
- ・変わらない 58.5% (前期比+ 0.2ポイント)

＜業種別＞

- ・前期比改善：4業種 (「鉄・非鉄・金属」「機械」「木材・家具」「印刷・出版」)
- ・前期比悪化：3業種 (「化学・石油」「食料品」「その他」)
- ・前期比不変：1業種 (「窯業・土石」)

感染症の再拡大により需要が減少した「食料品」が悪化した一方、堅調な受注に支えられた「鉄・非鉄・金属」が改善したほか、「機械」において自動車生産台数の回復を受け、業況判断BSIが改善した。ただし、原材料仕入価格が高騰していると回答する企業の割合は、依然として高い。

【来期】(2022年4～6月期〈II期〉)

業況判断BSI：▲ 1.6 (今期比+18.4ポイント)

＜内訳＞

- ・よくなる 24.6% (今期比+13.8ポイント)
- ・悪くなる 26.2% (今期比▲ 4.6ポイント)
- ・変わらない 49.2% (今期比▲ 9.3ポイント)

＜業種別＞

- ・今期比改善：4業種 (「鉄・非鉄・金属」「食料品」「木材・家具」「その他」)
- ・今期比悪化：2業種 (「機械」「印刷・出版」)
- ・今期比不変：2業種 (「化学・石油」「窯業・土石」)

来期は、行動制限が緩和されるとの見方から、「食料品」において業況判断BSIが今期よりも改善する見通しであり、全体の業況判断BSIも今期と比べ改善する見通しである。

### ◎売上高と収益

【今期】

売上高BSI：▲ 7.7 (前期比+ 4.8ポイント)

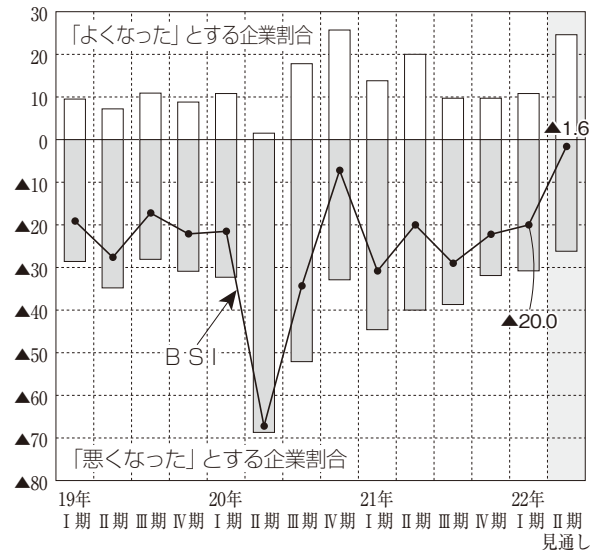
収益BSI：▲15.6 (前期比+ 1.0ポイント)

【来期】

売上高BSI：± 0.0 (今期比+ 7.7ポイント)

収益BSI：▲ 7.8 (今期比+ 7.8ポイント)

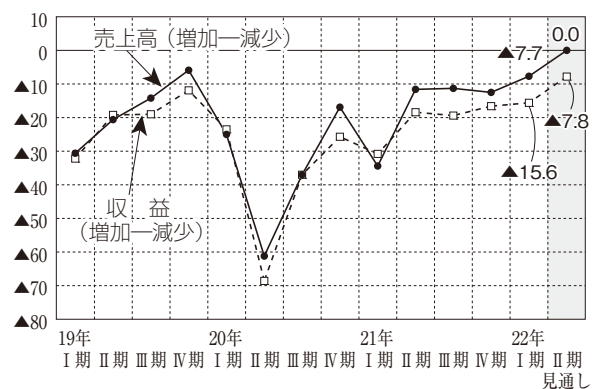
業況判断 ( B S I )



業況判断指数内訳 ( B S I )

	2021年 III期	2021年 IV期	2022年 I期	2022年 II期見通し
化学・石油	▲25.0	▲16.7	▲20.0	▲20.0
鉄・非鉄・金属	▲42.8	▲33.4	11.1	44.5
機 械	5.8	▲15.8	▲ 6.3	▲12.5
食 料 品	▲53.8	▲ 7.7	▲53.8	▲ 7.7
木材・家具	0.0	▲12.5	0.0	50.0
印刷・出版	▲60.0	▲33.3	▲20.0	▲60.0
窯業・土石	0.0	0.0	0.0	0.0
そ の 他	▲83.3	▲44.5	▲50.0	▲12.5
製 造 業	▲29.0	▲22.2	▲20.0	▲ 1.6

売上高と収益 ( B S I )



## 卸売業・小売業ともに悪化

## ◎業況判断

【今期】(2022年1～3月期〈I期〉)

『卸売業』

業況判断BSI：▲27.0(前期比▲11.0㊦)

&lt;内訳&gt;

- ・よくなった 11.5%(前期比▲0.5㊦)
- ・悪くなった 38.5%(前期比+10.5㊦)
- ・変わらない 50.0%(前期比▲10.0㊦)

『小売業』

業況判断BSI：▲42.3(前期比▲32.9㊦)

&lt;内訳&gt;

- ・よくなった 7.7%(前期比▲4.8㊦)
- ・悪くなった 50.0%(前期比+28.1㊦)
- ・変わらない 42.3%(前期比▲23.3㊦)

感染症の再拡大によって観光関連商品を取り扱う企業などで業況が悪化しており、卸売業、小売業ともに業況判断BSIが悪化した。

【来期】(2022年4～6月期〈II期〉)

『卸売業』

業況判断BSI：▲23.1(今期比+3.9㊦)

『小売業』

業況判断BSI：▲38.5(今期比+3.8㊦)

業況判断BSIは今後原油価格高騰の影響が拡大するとの懸念から低水準となっているものの、卸売業、小売業ともに改善する見通しである。

## ◎卸売業：売上高と収益

【今期】

売上高BSI：▲23.1(前期比▲15.1㊦)

収益BSI：▲23.1(前期比▲3.1㊦)

【来期】

売上高BSI：▲7.7(今期比+15.4㊦)

収益BSI：▲23.1(今期比±0.0㊦)

## ◎小売業：売上高と収益

【今期】

売上高BSI：▲11.6(前期比▲14.7㊦)

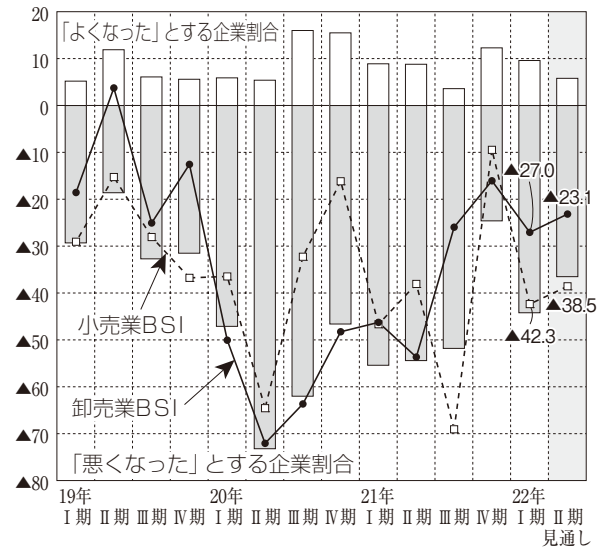
収益BSI：▲42.3(前期比▲20.4㊦)

【来期】

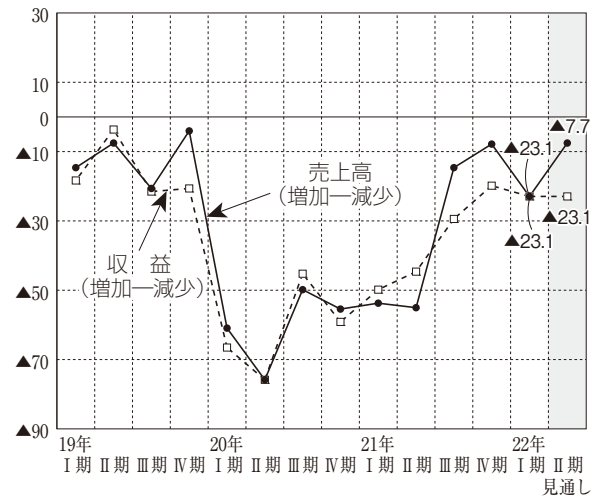
売上高BSI：▲30.8(今期比▲19.2㊦)

収益BSI：▲46.2(今期比▲3.9㊦)

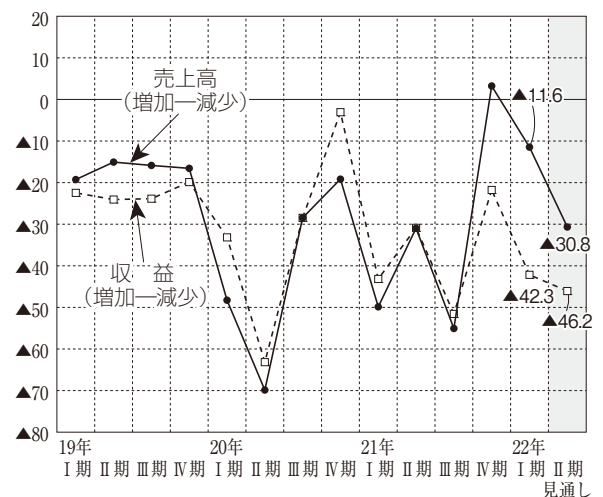
業況判断(BSI)



【卸売業】売上高と収益(BSI)



【小売業】売上高と収益(BSI)



## 前期から改善

### ◎業況判断

【今期】(2022年1～3月期〈I期〉)

業況判断BSI : ▲11.5 (前期比+ 8.5㊦)

<内訳>

- ・よくなった 0.0% (前期比± 0.0㊦)
- ・悪くなった 11.5% (前期比▲ 8.5㊦)
- ・変わらない 88.5% (前期比+ 8.5㊦)

業況が「悪くなった」と回答する企業が減少したことで、業況判断BSIは前期比で改善した。一方、業況が「よくなった」との回答は、前期と同様に見られなかった。

また、経営上の問題点として仕入高騰を挙げる企業の割合が大きく上昇しており、人手不足をわずかに上回った。

【来期】(2022年4～6月期〈II期〉)

業況判断BSI : ▲27.0 (今期比▲15.5㊦)

<内訳>

- ・よくなる 3.8% (今期比+ 3.8㊦)
- ・悪くなる 30.8% (今期比+19.3㊦)
- ・変わらない 65.4% (今期比▲23.1㊦)

来期は改善する要素に乏しく、売上高BSIと収益BSI、業況判断BSIはいずれも悪化する見通しである。

### ◎売上高と収益

【今期】

売上高BSI : +15.4 (前期比+19.4㊦)

収益BSI : ± 0.0 (前期比+12.0㊦)

【来期】

売上高BSI : ▲48.0 (今期比▲63.4㊦)

収益BSI : ▲64.0 (今期比▲64.0㊦)

### ◎所定外労働時間と雇用者数の現状

【今期】

所定外労働時間BSI : ▲12.0 (前期比+ 4.0㊦)

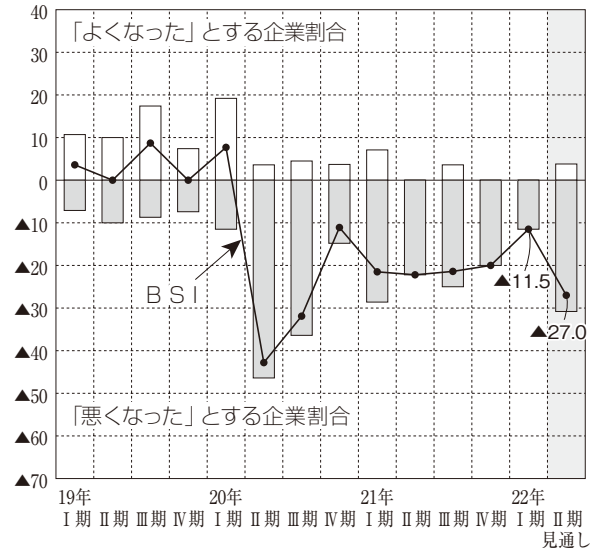
雇用者数の現状BSI : ▲65.0 (前期比▲ 5.9㊦)

雇用者数の現状BSIが2期連続で低下するなど人手不足が強まる中、所定外労働時間BSIは3期連続の上昇となった。

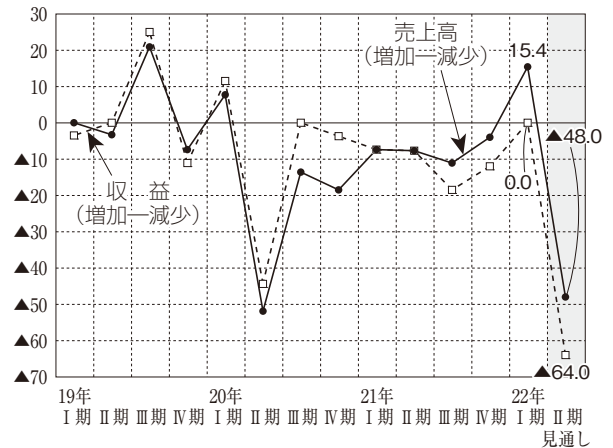
【来期】

所定外労働時間BSI : ▲24.0 (今期比▲12.0㊦)

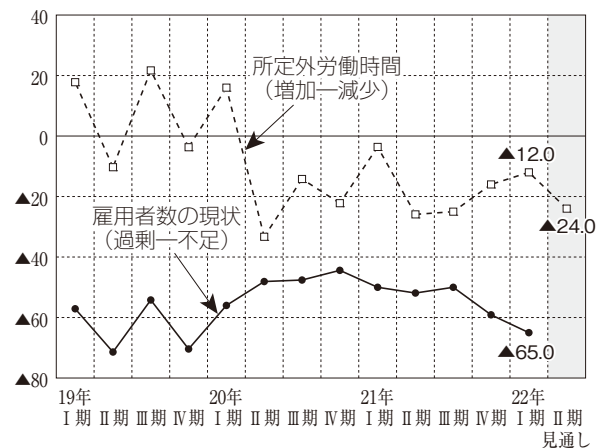
業況判断 ( B S I )



売上高と収益 ( B S I )



所定外労働時間と雇用者数の現状 ( B S I )



## 4期ぶりに悪化

### ◎業況判断

【今期】(2022年1～3月期〈I期〉)

業況判断BSI : ▲55.9 (前期比▲73.4ポイント)

＜内訳＞

- ・よくなった 5.9% (前期比▲26.6ポイント)
- ・悪くなった 61.8% (前期比+46.8ポイント)
- ・変わらない 32.4% (前期比▲20.1ポイント)

サービス業のうち観光関連の18社では、「よくなった」と回答した企業はなく、「悪くなった」と回答した企業は前期比79.4ポイント増の94.9%だった。観光関連以外(16社)では、「よくなった」と回答した企業が12.5%、「悪くなった」と回答した企業が25.0%だった。感染症の再拡大を受け、1月27日～2月20日に県内で初めてまん延防止等重点措置が適用されたことで、観光客が急激に減少し、前期回復基調にあった観光関連で業況が著しく悪化した。

【来期】(2022年4～6月期〈II期〉)

業況判断BSI : + 8.8 (今期比+64.7ポイント)

＜内訳＞

- ・よくなる 29.4% (今期比+23.5ポイント)
- ・悪くなる 20.6% (今期比▲41.2ポイント)
- ・変わらない 50.0% (今期比+17.6ポイント)

### ◎売上高と収益

【今期】

売上高BSI : ▲61.7 (前期比▲84.8ポイント)

収益BSI : ▲52.9 (前期比▲78.6ポイント)

【来期】

売上高BSI : ▲ 2.9 (今期比+58.8ポイント)

収益BSI : ▲ 2.9 (今期比+50.0ポイント)

### ◎所定外労働時間と雇用者数の現状

【今期】

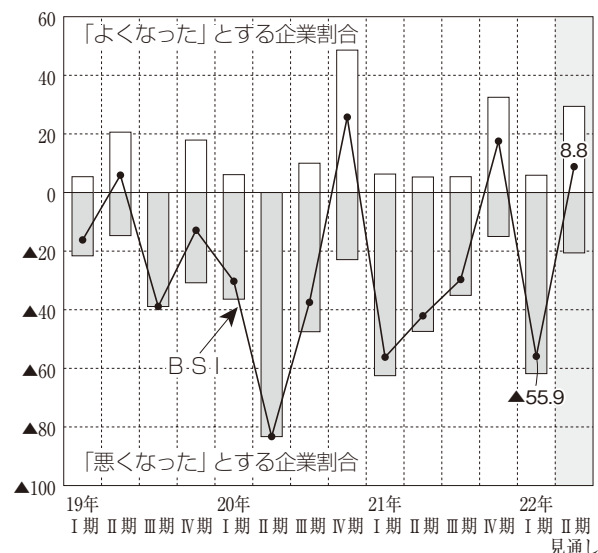
所定外労働時間BSI : ▲42.4 (前期比▲47.5ポイント)

雇用者数の現状BSI : ▲15.4 (前期比+ 0.2ポイント)

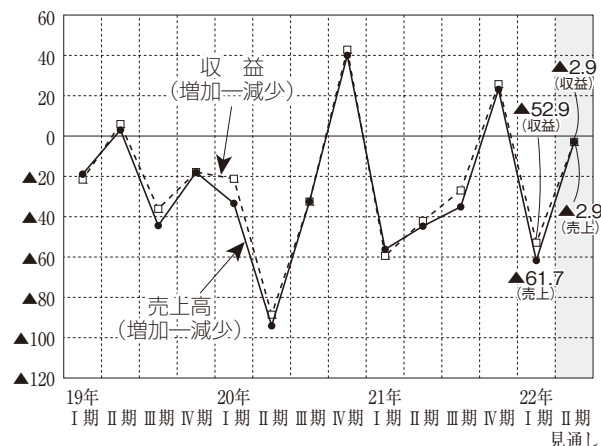
【来期】

所定外労働時間BSI : ▲ 3.0 (今期比+39.4ポイント)

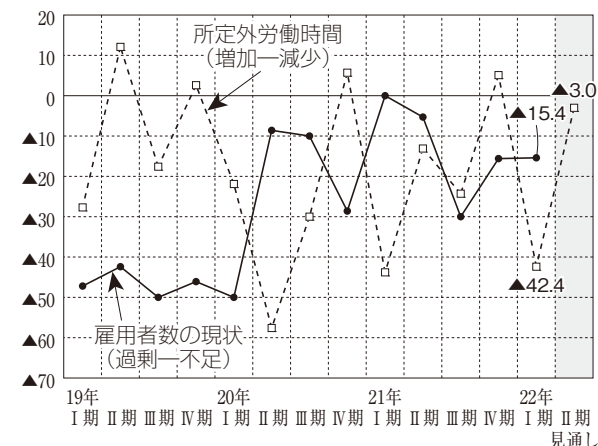
業況判断 (BSI)



売上高と収益 (BSI)



所定外労働時間と雇用者数の現状 (BSI)



## BSIとは

BSIとは“Business Survey Index”の略

企業経営者の業況に関する判断や景気見通しを“よくなる・よくなった”、“変わらない”、“悪くなる・悪くなった”という3つの形式で回答を求め、これを数値であらわしたものである。

BSIは次の数式で求められる。

①[よくなる]+[変わらない]+[悪くなる]=100%とする

②[変わらない]の回答分を除く

③  $BSI = [よくなる] - [悪くなる]$

BSIが前期を上回れば景気は改善、前期を下回れば悪化という見方をする。

## 調査の概要

当調査は、大銀経済経営研究所、大分信用金庫、大分県産業創造機構の三者合同によるアンケート調査である。

◎調査時点 2022年2月20日

◎調査の内容

- ・自社の景況の実績と見通し
- ・売上高と収益の実績と見通し
- ・設備投資実施割合
- ・経営上の問題点など

◎調査対象

- ・県内に本社または出先事業所を有する企業433社

◎回答企業数 197社

・回答率 45.5%

・規模別割合

資本金1千万円未満・個人	7.6%
資本金1千万円～1億円未満	59.4%
資本金1億円以上	15.7%
無回答	17.3%

おおいたの経済と経営 NO.379 4月号付録 2022年3月25日発行（毎月1回25日発行）

発行所 株式会社大銀経済経営研究所 〒870-0035 大分市中央町2丁目9番22号 大分中央町ビルディング7階  
TEL (097) 533-8111 編集発行人 衛藤 健 印刷所 株式会社佐伯コミュニケーションズ